

自然環境

目次

表1	愛知県内の特異な地形・地質	(63)
表2	愛知県の森林面積	(64)
表3	愛知県内の国定公園及び県立自然公園別面積	(65)
表4	県自然環境保全地域の指定状況	(66)
表5	愛知県における希少野生動植物の状況	(67)

表 1 愛知県内の特異な地形・地質

番号	地域名(名称)	所在地	特異な状況
1	木曾川河川敷	一宮市・稲沢市	イタセンバラの生息可能な河川敷
2	蓮華寺の自然堤防	あま市(旧海部郡美和町)	自然堤防の名残りで見られる小丘 (標高 11.8m)
3	木曾川河床(日本ライン)	犬山市	中・古生層の好露頭
4	善師野の化石	犬山市	メタセコイアなど豊富な植物化石の産地
5	熊野神社の五枚岩	小牧市	県指定(1960年)天然記念物、花崗岩の方状節理
6	庄内川河床(定光寺)	春日井市・瀬戸市	中・古生層の好露頭
7	水野川の目鼻石	瀬戸市	人の目鼻のように造形されたチャート
8	岩屋堂公園	同上	花崗岩の方状節理
9	八事層(東部丘陵)	名古屋市	不整合、紡錘虫を含むチャート礫
10	大褶曲	知多郡美浜町	師崎層群の褶曲
11	つぶて浦	知多郡南知多町	領家変成岩の巨礫
12	砂岩脈	同上	地震の化石とも言われる砂岩の岩脈
13	日間賀島	同上	師崎層群の地層と化石の産地
14	猿投山の球状花崗岩	豊田市	国指定(1931年)天然記念物、断面が菊花状を呈する花崗岩
15	猿投一境川断層	同上	上盤が花崗岩、下盤が矢田川累層からなる逆断層
16	八ツ面山	西尾市	俗にキララという雲母の産地
17	青島山	西尾市(旧幡豆郡吉良町・幡豆町)	典型的なハンレイ岩と希元素鉱物の産地
18	佐久島	西尾市(旧幡豆郡一色町)	層間褶曲とコダイアママモなど化石の産地
19	三河地震による地震断層	西尾市(旧額田郡幸田町)	県指定(1975年)天然記念物、深溝断層の一部
20	牛乗山の巨礫	岡崎市	山頂部に散在する水磨された巨礫
21	玄武岩(三国山)	豊田市	県指定(1955年)天然記念物、俗に亀ノ甲石という
22	茶臼山	北設楽郡豊根村	本県最高峰(標高 1415m)
23	天狗棚	北設楽郡設楽町	基底礫岩、安山岩、ブッカイト
24	白鳥山	同上	領家変成岩の晶洞と水晶
25	津具溜淵	同上	大入川と鴨山川との河川争奪
26	柴石峠	北設楽郡東栄町	植物化石の産地
27	作手礫岩	新城市	古流系を物語る礫岩層
28	乳岩及び乳岩狭	同上	国指定(1934年)天然記念物・名勝
29	大島川溪谷	同上	溶結凝灰岩、金武石、火山豆石
30	鳳来寺山	同上	国指定(1931年)名勝・天然記念物
31	馬背岩	同上	国指定(1934年)天然記念物、宇連川河床の安山岩岩脈
32	阿寺の七滝	同上	国指定(1934年)名勝・天然記念物
33	本宮山	豊川市	珪線石雲母片麻岩
34	中央構造線	新城市	上盤が花崗岩、下盤が三波川変成岩からなる大断層
35	新城桜淵	同上	蜂の巣岩と呼ばれる石灰岩の谷壁
36	吉祥山	同上	角閃石片岩、塩基性火山砕屑岩
37	石巻山	豊橋市	石灰岩特有の地形
38	高師小僧	同上	県指定(1957年)天然記念物、管状の褐鉄鉱
39	高塚サンドスキー場	同上	海食崖と砂丘
40	伊良湖岬	田原市	岬地形と日出の石門
41	大瀉洲	同上	沿岸流によって形成された砂嘴(嘴はくちばしの意)
42	鸚鵡石	同上	チャートの断層鏡肌
43	高松の化石	同上	豊富な貝化石の産地

(資料)「愛知県の自然環境 2000」(2000年3月発行)

表2 愛知県の森林面積

区 分				面積 (ha)	構成比 (%)	
国 有 林				11,450	5.3	
民 有 林	地 域 森 林 計 画 対 象 森 林	立	人工林	針葉樹	130,513	60.0
				広葉樹	411	0.2
				小計	130,923	60.1
		木	天然林	針葉樹	13,317	6.1
				広葉樹	56,493	26.0
				小計	69,810	32.1
		計			200,734	92.2
		竹林			2,308	1.1
		その他			2,658	1.2
		計			205,700	94.5
地域森林計画対象外森林			547	0.3		
合計				217,697	100.0	

(注) 2023年3月末現在。単位未満を四捨五入したため、内訳と計は必ずしも一致しない。

(資料) 農林基盤局

表3 愛知県内の国定公園及び県立自然公園別面積

公園名 (指定年月日)	区域面積 (ha)	特別保護地区 (ha)	第1種～第3種特別地域 (ha)	普通地域 (ha)	所在市町村名	
国定公園	三河湾 (1958.4.10)	9,457	20 (0.2%)	8,549 (90.4%)	888 (9.4%)	豊橋市、岡崎市、豊川市、西尾市、蒲郡市、田原市、南知多町、美浜町、幸田町の各一部
	飛驒木曾川 (1964.3.3)	3,661	64 (1.7%)	2,962 (80.9%)	635 (17.4%)	犬山市の一部
	天竜奥三河 (1969.1.10)	14,959	121 (0.8%)	14,689 (98.2%)	149 (1.0%)	豊田市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村の各一部
	愛知高原 (1970.12.28)	21,740	- (0.0%)	20,153 (92.7%)	1,587 (7.3%)	瀬戸市、春日井市、豊田市、小牧市、新城市、設楽町の各一部
	計 (%)	49,817	205 (0.4%)	46,353 (93.0%)	3,259 (6.5%)	18市町村
県立自然公園	渥美半島 (1968.5.1)	12,556	- (0.0%)	1 (0.0%)	12,555 (100.0%)	田原市の一部
	南知多 (1968.5.1)	8,649	- (0.0%)	- (0.0%)	8,649 (100.0%)	西尾市、常滑市、知多市、南知多町、美浜町、武豊町の各一部
	段戸高原 (1969.3.14)	3,781	- (0.0%)	3,781 (100.0%)	- (0.0%)	設楽町の一部
	振草溪谷 (1969.3.14)	2,198	- (0.0%)	2,000 (91.0%)	198 (9.0%)	東栄町の一部
	本宮山 (1969.3.14)	7,302	- (0.0%)	6,374 (87.3%)	928 (12.7%)	岡崎市、豊川市、新城市の各一部
	桜淵 (1969.3.14)	2,517	- (0.0%)	1,806 (71.8%)	711 (28.2%)	新城市の一部
	石巻山多米 (1969.3.14)	2,061	- (0.0%)	2,061 (100.0%)	- (0.0%)	豊橋市の一部
	計 (%)	39,064	- (0.0%)	16,023 (41.0%)	23,041 (59.0%)	13市町
合計	88,881	205	62,376	26,300	21市町村	

(注) 1 2023年3月末現在のデータ。

2 区域面積は、陸域面積を示している。三河湾国定公園については、陸域の他に特別地域地先1kmの海域が普通地域になっている。

3 自然公園の総面積は県土面積517,306haの17.2%を占めている。

4 各地種区分の位置付けは次のとおりとなっている。

特 別 地 域	特別保護地区	公園の中で最も中心となる景観地であり、現状維持を原則とする地域
	第1種特別地域	特別保護地区に準ずる地域で、現在の景観を極力保護する必要がある地域
	第2種特別地域	良好な自然状態を保持している地域で、農林漁業との調和を図りながら自然景観の保護に努めることが必要な地域
	第3種特別地域	特別地域の中では風致を維持する必要がある比較的低い地域であり通常の農林漁業活動については風致の維持に影響を及ぼすおそれが少ない地域
	普通地域	特別地域と一体的に風景の保護を図ることが必要な地域

(資料) 環境局調べ

表4 県自然環境保全地域の指定状況

名称	所在地	面積 (ha)			要件	特 質 (主な種等)	指定年月日
		特別地区 (野生動植物保護地区)	普通地区	計			
たのしりしつげん 田之士里湿原	豊田市	0.58 [0.15]	2.20	2.78	③	中間湿原(モウセンゴケ、サギツウ、ハツチョウトンボ)	1975.1.31
れんげじじそう 蓮華寺寺叢	あま市	0.32	1.89	2.21	②	自然堤防及び常緑広葉樹林(シャヤンボ、カシ)	1975.1.31
こまきおおやま 小牧大山	小牧市	9.32	36.74	46.06	①	常緑広葉樹林(シイ、カシ、タブ)	1976.10.15
あおとりやま 青鳥山	西尾市	1.62	—	1.62	②	はんれい岩地帯(ハンレイ岩、電気石)	1976.10.15
きちじょうさん 吉祥山	豊橋市 新城市	—	20.15	20.15	②	角閃石片岩(カクセンセキハンガン)からなる特異地質	1976.10.15
いくまじんじゃしゃそう 伊熊神社社叢	豊田市	2.63 [1.49]	2.12	4.75	④	針広混交林(コアサダ、ユキザサ)	1977.4.22
こづつみにしいけ 小堤西池	刈谷市	5.83 [5.83]	—	5.83	④	カキツバタの群落(カキツバタ)	1978.3.24
おおぬま 大沼	豊根村	15.13 [15.13]	—	15.13	① ④	落葉広葉樹林(フナ、アサダ)	1978.3.24
しるとりやま 白鳥山	設楽町	5.71 [5.71]	7.90	13.61	② ④	岩礫地特有の植生及び特異地質(水晶、コウヤマキ)	1979.3. 2
ちはらざわ 茅原沢	岡崎市	—	14.36	14.36	④	落葉広葉樹林(ヒメシャラ、オオスミ)	1984.3.28
いっちょうだしつち 老町田湿地	武豊町	1.13 [1.13]	0.10	1.23	④	湿地植物群落等(シロバナナガバノイシモチソウ)	1999.2.26
やまなかはちまんぐう 山中八幡宮	岡崎市	1.55 [1.55]	3.95	5.50	④	常緑広葉樹林(ルミノキ、オアフエイチゴ)	2004.2.27
かいしよのもり 海上の森	瀬戸市	48.60 [10.94]	79.25	127.85	④	貧栄養湿地の植生等(シテコブシ、サクラバノハシ)	2006.3.24
とうごくさん 東谷山	名古屋市	12.40 [12.40]	15.27	27.67	④	常緑広葉樹林(スダジイ等)、湿地の植生(シテコブシ等)	2010.4.2
とりでやま 砦山	豊根村	3.36	—	3.36	④	三河山間部の自然林(モミ、ツガ等)	2010.4.2
計 15地域	13 市町村	108.18 [54.33]	183.93	292.11	要件 ① 優れた天然林(10ha以上) ② 特異な地形、地質(1ha以上) ③ 自然環境が優れた状態を維持している海岸、湖沼、河川、湿原等(1ha以上) ④ 野生動植物等の生息地、自生地(1ha以上)		

(注) 1 2023年3月末
2 各地種区分の位置付けは次のとおりとなっている。

特別地区	生態系構成上重要な地区、その他自然環境の特質を維持するため特に保全を図るべき地区
野生動植物保護地区	特定の動植物の保護のため特別地区内に指定する地区
普通地区	特別地区以外の地区

(資料) 環境局調べ

表5 愛知県における希少野生動植物の状況

表5-1 「レッドリストあいち2020」掲載種数の概要

評価区分		植物	動物	合計
絶滅 (EX)		50 (50)	32 (24)	82 (74)
絶滅のおそれのある種		529 (511)	364 (337)	893 (848)
内 訳	絶滅危惧 IA 類 (CR)	122 (104)	104 (111)	226 (215)
	絶滅危惧 IB 類 (EN)	194 (201)	117 (93)	311 (294)
	絶滅危惧 II 類 (VU)	213 (206)	143 (133)	356 (339)
準絶滅危惧 (NT)		116 (121)	218 (196)	334 (317)
情報不足 (DD)		3 (3)	89 (79)	92 (82)
地域個体群 (LP)		—	4 (5)	4 (5)
国リスト		29 (25)	49 (46)	78 (71)
合計		727 (710)	756 (687)	1,483 (1,397)

注：() 内は、「レッドリストあいち2015」の掲載種数

表5-2 「レッドリストあいち2020」植物の評価区分ごとの掲載種数

対象	評価区分	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	計	国リスト 環境省 レッド リスト 掲載種	県内 確認 種数
			絶滅危惧 IA 類 (CR)	絶滅危惧 IB 類 (EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	小計					
維管束植物		47 (47)	105 (90)	175 (179)	189 (183)	469 (452)	111 (115)	3 (3)	630 (617)	28 (25)	3,870
コケ植物 (小計)		3 (3)	17 (14)	19 (22)	24 (23)	60 (59)	5 (6)	0 (0)	68 (68)	1 (0)	620
セン類		0 (0)	16 (13)	15 (18)	19 (18)	50 (49)	5 (5)	0 (0)	55 (54)	0 (0)	443
タイ類		3 (3)	1 (1)	4 (4)	5 (5)	10 (10)	0 (1)	0 (0)	13 (14)	1 (0)	177
計		50 (50)	122 (104)	194 (201)	213 (206)	529 (511)	116 (121)	3 (3)	698 (685)	29 (25)	4,490

注1：表中の()内は、見直し前リスト(レッドリストあいち2015)の掲載種数を示す。

注2：国リストとは、環境省が2019年1月に公表したレッドリスト掲載種のうち、本県のリスト対象外と判定された種を示す。

注3：維管束植物の県内確認種数は「グリーンデータブックあいち2017」(愛知県環境部自然環境課、2017)による。亜種、変種を含む。また、帰化種、国内移入種、園芸植物起源で野外に逸出した植物等を含む。

注4：タイ類の県内確認種数は「グリーンデータブックあいち2018」(愛知県環境部自然環境課、2018)による。

表5-3 「レッドリストあいち2020」動物の評価区分ごとの掲載種数

評価区分 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	地域 個体群 (LP)	国	県内 確認 種数
		絶滅 危惧 IA類 (CR)	絶滅 危惧 IB類 (EN)	絶滅 危惧 II類 (VU)	小計					リスト 環境省 レッド リスト 掲載種	
哺乳類	3 (3)	6 (6)	4 (3)	4 (4)	14 (13)	10 (10)	2 (2)	29 (28)	2 (2)	0 (0)	73
鳥類	3 (1)	13 (15)	25 (19)	29 (32)	67 (66)	17 (16)	0 (0)	87 (83)	2 (3)	5 (4)	426
爬虫類	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16
両生類	0 (0)	4 (3)	4 (3)	1 (1)	9 (7)	5 (4)	0 (3)	14 (14)	0 (0)	1 (1)	22
汽水・淡水魚類	0 (0)	8 (8)	9 (9)	9 (8)	26 (25)	6 (7)	7 (7)	39 (39)	0 (0)	9 (9)	198
昆虫類	14 (11)	17 (21)	31 (26)	32 (33)	80 (80)	90 (91)	30 (26)	214 (208)	0 (0)	23 (21)	10,443
クモ類	0 (0)	3 (3)	17 (17)	10 (12)	30 (32)	8 (6)	1 (1)	39 (39)	0 (0)	0 (0)	590
貝類 (小計)	12 (9)	53 (55)	26 (15)	58 (43)	137 (113)	81 (61)	45 (36)	275 (219)	0 (0)	11 (11)	約 690
陸産	0 (0)	6 (5)	5 (1)	17 (14)	28 (20)	25 (20)	4 (9)	57 (49)	0 (0)	3 (3)	約 150
淡水産	5 (5)	4 (3)	0 (0)	2 (2)	6 (5)	5 (5)	5 (6)	21 (21)	0 (0)	2 (2)	39
内湾産	7 (4)	43 (47)	21 (14)	39 (27)	103 (88)	51 (36)	36 (21)	197 (149)	0 (0)	6 (6)	約 500
計	32 (24)	104 (111)	117 (93)	143 (133)	364 (337)	218 (196)	89 (79)	703 (636)	4 (5)	49 (46)	約 12,450

注1：表中の（ ）内は、見直し前リスト（レッドリストあいち2015）の掲載種数を示す。

注2：鳥類については、評価対象ごとにランクが異なる場合は、最上位の評価区分とした。

注3：国リストとは、環境省が2019年1月に公表したレッドリスト掲載種のうち、本県のリスト対象外と判定された種を示す。

注4：県内確認種数は「グリーンデータブックあいち2018」（愛知県環境部自然環境課、2018）による（クモ類及び貝類を除く）。国内外からの移入種、再野生化家畜を含む。

【評価区分について】

○絶滅：本県ではすでに絶滅したと考えられる種。

○絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。

 絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

 絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

○絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。

○準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。

○情報不足：「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」のいずれかに該当する可能性が高いが、評価するだけの情報が不足している種。

○地域個体群：その種の国内における生育状況に鑑み、本県において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群。

○国リスト：環境省レッドリストに記載されているが、愛知県において上記の要件に該当しない種。

（資料）環境局調べ